

暮らしやすい村の
グランドデザイン構想検討委員会

GDかわら版



Vol.

1

好きです！たのはた！
希望が持てるまちづくり！
～チャレンジを大切に～

第1回 暮らしやすい村のグランドデザイン
構想検討委員会を開催しました！



平成30年7月24日（火）役場第一会議室

★第1回の構想検討委員会では★

第1回委員会には、村の産業各団体からの推薦者や公募委員など、20人が参加し、委員長に中村房永さん、副委員長に竹下敦子さんと熊谷宗矩さんを選任しました。

委員会では、事務局が村の現状や課題を説明し、最後に委員一人一人が村への思いを発表しました。子育てや次世代を思う気持ち、産業、地域コミュニティの将来など、村の現状をどのように将来に繋げるか、印象深い言葉がたくさんありました。

また、委員会には構想策定のアドバイザーとして、村議会の上山明美議員、畠山拓雄議員、大森一議員と早稲田大学の早田宰教授に出席いただきました。

早田教授からは、他市町村のまちづくりの事例などのお話をいただき、村議会議員の方々からは、委員会への期待と激励の言葉をいただきました。

今後委員会では、基本理念や将来目標を定め、村の皆さんからの意見を
伺いながら構想を策定していきます。



★参加いただいた委員とアドバイザーのご紹介（敬称略）★

石川 健 田野畑中学校 校長	金子 正典 林業	中村 房永 漁協青年部長	山根 洋子 中城興産(株)役員	平坂 聡 総務課	上山 明美*) 村議会 総務教育民生委員会
佐藤 真理子 若桐保育園保護者会	熊谷 宗矩 酪農	畠山 辰也 (株)ふるさと木材社長	中山 城明 中城興産(株)社長	佐々木 和也 生活環境課	畠山 拓雄*) 村議会 産業建設常任委員会
熊谷 朋之 熊谷建設(株)社長	佐々木 勢津子 地域おこし協力隊	畠山 利彦 地域おこし協力隊	楠田 拓郎 体験村たのはたネット ワーク理事長	山口 芳美 政策推進課	大森 一*) 村議会 消防委員会
竹下 敦子 ハックの家 施設長	畠山 隆幸 商工会青年部長	佐々木 祐介 田野畑分署 消防士	石黒 あつみ ホテル羅賀荘	小野寺 洋美 生活環境課	早田 宰*) 学校法人 早稲田大学

*) アドバイザー

事務局からのお知らせ

村では、『暮らしやすい村のグランドデザイン構想』を検討する委員を募集
しています。応募方法などは、広報たのはた9月号に掲載します。
多くの皆さんの参加をお待ちしております。

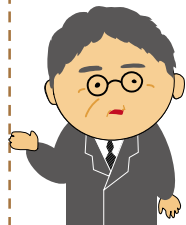


★委員一人ひとりが思いを発表しました



石原村長からひとこと

◆若い人、住む、仕事、チャレンジ、その中で一番印象的だったのが、「好きになる村をつくる」ということです。田野畑でこんなところが好き、ここに来ることが好き、友達、恋人、服、食べ物、スポーツ、空間、仕事など様々な要素があり、そして失敗してもやり直せる環境でありたいです。



早稲田大学 早田教授からひとこと

◆夕張市は郊外を作らず、団地は電気や水道やガスを止めて、コンパクトにして財政を健全化しています。不便かと思いきや、皆、銭湯に行くようになり人々の交流ができて、かえって人間関係が良くなっています。

◆オープンシティ釜石の事例は、交流人口、外部の人と関わりながらやっていき、色々な意味で観光、産業、教育といったチャレンジにつなげています。人口の20%をつながり人口に当て込んで、アイデア、お金などで地域を元気にして行こうと言うものです。

委員からのひとこと

★人とのつながりを大事に！



◆暮らしやすい村にあたり、関係する人間が積極的に関わっていく必要があります。この村に来て8年くらいになりますが、観光について、もっとお客様が来るのに工夫していません。産業についても、自分達がもっと良くしようという工夫が足りません。まず、人が変わらなければランドデザインの良いものがないと思います。自分達も積極的に物事を考えられるように、役所だけでなく民間を活用していくべきだと思います。

◆若い世代と、働いている世代が気軽に集まる場がないです。そのようなところがあれば、イノベーションや動きに繋がり、盛り上がると思います。

★弱みを強みに！



◆全国で猛暑がニュースになっているが田野畑はそこまで気温が上がらないです。デメリットはやませだが、涼しく暮らせます。逆の発想で、夏涼しいというのはメリットと捉えてもいいと思います。

◆田野畑村の涼しさは、別荘や避暑地に行くような感覚で来ました。



★次世代を大切に持続可能な村づくりが大事！

◆子供達が田野畑を誇りに思っているのか疑問です。将来、田野畑に帰って来なくても自分の置かれた状況で頭の片隅にでも田野畑があってほしいと思います。

◆人口は減少するが、子供達を村にとどめるのではなく、村から教育をきちんと受けさせて、知識と勉強の場を与えて、村から出て良いと思います。いろんな経験を積んで、村に戻ってくるという村づくりをするのも大人の役目だと思います。

◆勉強だけではなく、田野畑のことをよく知るというのも大事です。田野畑を出て戻ってき。何だかいいなと思って戻ってきたが理由がはっきり思い出せず過ごしています。それでも、何だかいいよなと、思えることを大事にしたいと思います。

◆田野畑で生まれて嫁ぎました。住んでみて暮らしやすいです。子供達も地元が好きであり、また、更に小さな子どもたちの職場体験があったようで、この産業に関わって欲しいです。

◆現在の田野畑村を変えるために、ここだけは守っていこうというところも併せて考えるべきです。変えると言っても、20、30年前に戻すのも変え方の一つです。先進的にするばかりがランドデザインに必要なのではなく、守ること、戻すことも、併せて考えていければと思います。

◆漁師は後継者不足で悩んでいますが、羅賀地区は後継者がいるほうだと思っています。一次産業は大変ですが、後継者をどうやって残すかということも大事です。田野畑村に誇りを持っていることが大事です。田野畑が好きで漁師が好きだったから、25年前戻ってきたと思い返しました。今の子供たちを一次産業の後継者として育てて、田野畑村に残せるような村づくりにしていけないと思っています。

◆そのためには教育が必要ではないでしょうか。その教育とは行政だけでなく、学校だけでなく、地域や各家庭と一体となって誇りをもてるような村づくりをしていければ良いと思います。



★買い物に期待！

◆今の時点ではコンビニも大型店も一切来ません。ただし三陸沿岸道路が開通すると商圈が拡がり、商業施設の出店が期待されます。

★コンパクトシティとは？

◆コンパクトシティ、コンビニ、イオンの誘致は田野畑にとって本当に幸せなのでしょうか？移住して来て、コミュニティの繋がりがコンパクトになり、なくなってしまうのがいいのか疑問に思います。